

成果報告イベントの開催 (2023年3月11日・イオンモールりんくう泉南)

関西・大阪21世紀協会が2021年度より実施している「学校アートプログラム」。本事業は、小学校にアーティストを派遣して授業を行うことで、子どもたちがアーティストと触れ合い、創造性を育み、心豊かな成長を促すとともに、関西・大阪の文化芸術の活性化を図ることを目的としています。1年目の2021年度は、その取り組み成果の報告を作品や動画の展示で行いましたが、2年目の2022年度は、新型コロナウイルス感染症による各種制限が緩和されたことにより、集客イベントとして実施しました。

実施自治体の首長も参加

イベントでは、2年間の取り組み内容の紹介、プログラム実施自治体(泉南市、阪南市、岬町)の首長へのインタビューのほか、2022年度実施プログラムの中、代表的な「アフリカの音楽を体験しよう!」を皆さんに体験してもらうため、同プログラムの講師:ンコシ・アフリカによる南アフリカの国や文化の紹介、ジェンベ(アフリカの太鼓)のミニライブ、観覧者による演奏体験を2回実施しました。

1回目は、阪南市の水野謙二市長、岬町の松岡裕二副町長、2回目は泉南市の山本優真市長にお越しいただき、それぞれ学校アートプログラムを実施した感想や継続的に実施する必要性などについてお伺いしました。



《首長のコメント》

「激動の社会の中で大人になっていく子どもにとって、多文化・アートに小学校のときから直接触れ合える貴重な体験であり、子どもの教育において非常に重要」「子どもたちが主体的に楽しそうに参加している姿を見ていると、このプログラムに参加できてよかった」などの感想をいただきました。また、継続的な実施の必要性について、「参加した子どもたちの90%以上が、またやってみたくて回答したことや、子どものさらなる可能性を伸ばしていくこと、学力ではない非認知能力を増やしていく取り組みであることから、継続的に実施していきたい」とお話しいただきました。



ミニライブやジェンベの体験も

「アフリカの音楽を体験しよう!!」では、特設会場に設置した大型モニターに南アフリカの食べ物、アートなどを映し出しながら紹介。続いて、ンコシ・アフリカのミニライブを実施しました。



ンコシ・アフリカによるミニライブジェンベの心地よいリズムが響き渡ると、建物内のあちこちから人々が集まり、会場は大にぎわい。民族衣装を身につけた二人が叩く、軽快で力強いジェンベに合わせて、ダンサー・メイサさんがパフォーマンスを見せてくれました。観覧者は体を揺らし、手拍子を楽しんでいました。会場が盛り上がったところで、

最後は集まった子どもたちを中心にジェンベの演奏を体験しました。

プログラム実施校で発表を見た他学年の児童も、「私もやってみたかったから」と来場するなど、地域の子もたちが続々と参加してくれました。MCのやのパンさんや市長、副町長も加わり、初めて体験する異国の楽器に「手が痛かったけど、楽しかった」「もっとやりたい」と大満足の様子でした。

1日のイベントでしたが、地域の方々が芸術文化を知り体験するきっかけとなり、芸術文化の裾野を広げる一助となりました。



演奏体験を楽しむ子どもたち

アーティストプロフィール

ンコシ・アフリカ (ジョゼフ・ンコシ / 河辺知美)

南アフリカ共和国出身。伝統楽器マリンバをはじめ、さまざまなアフリカンパーカッションの奏者で、楽器制作や絵も描くマルチアーティストであるジョゼフ・ンコシさんと、大阪府出身のジェンベ、マリンバ奏者の河辺知美さんによるアフリカン音楽のユニット。各地でアフリカ音楽の公演を行うほか、ワークショップなど幅広く活動中。

シェハ・メイサ・ボイ

西アフリカセネガル共和国出身のサバル(手とスティックを使って演奏するセネガルの伝統楽器)奏者。ダンサーとしても大活躍し、全国各学校や各種イベントに多数出演している。

